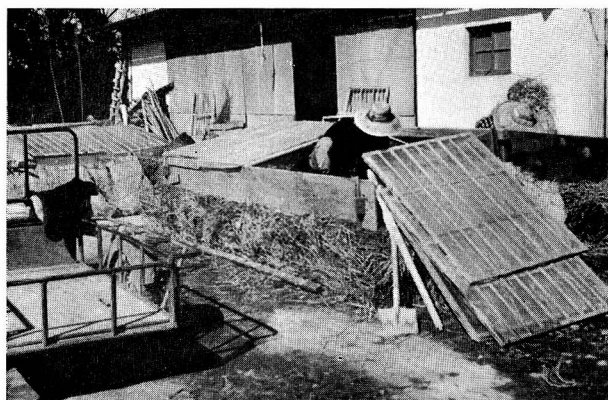


宮袋の温床およびいちごのビニール栽培風景 (42.3.27)



中荒井のトマト移植苗床 (42.3.29)

鈴淵の葡萄栽培は既に明治末から昭和初期まで最高調を維持して、葡萄園の鈴淵の名さえ産んだことがある。近年は下米塚を中心とする大川べりの砂利地帯の開墾地に梨、りんご、葡萄などの栽培が普及している。土質と若松への出荷距離によることが大きいと思われる。

この蔬菜栽培の必至の要件は速効肥料であるが、このためには専ら人糞尿の腐熟したものをを用いた。そして自

この温床栽培技術は、雪国にも拘らず、ビニールなどの普及によって一段と高度化されている。宮袋方面では、砂質壤土の適性と共に、水田に於ける早出しいちごなどを、ビニールをかけて行なっている。

このさらに高度なものはガラス張りした温室栽培であるが、真渡村、その他には幾棟もの温室がみられ、ここでは蔬菜はやがで花卉栽培にまでなっている。